

# なみびあ通信

第1号

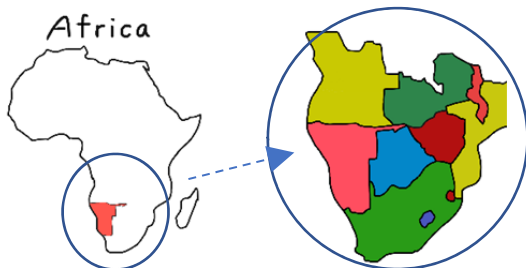
2019年8月5日

福島 嵐

初めまして。福島嵐（ふくしまらん）と申します。2019年2月から、JICA 海外協力隊として ナミビアという国に来ています。配属先は、ナミビア北部のオプウオという町にある、カメル小学校。私はここで算数、理科、アーツの授業と、放課後の日本文化クラブを担当しています。日本の皆さんに、ナミビアのこと、カメル小学校のこと、オプウオの町の人たちのことを紹介できたらと思って、このおたよりを書いています。



ナミビアという国をご存知ですか。あまり馴染みのない国かもしれません。ナミブ砂漠という砂漠のことは、ご存知でしょうか。



「アフリカの南端に南アフリカ共和国があって、ナミビアはその北西にあります」というと伝わりやすいかもしれません。ナミビアはアフリカ南部に位置し、南に南アフリカ共和国、北にアンゴラ、東にザンビア、ボツワナとの国境線があり、西には大西洋を臨みます。

私が住んでいる場所は、ナミビア北部にあるオプウオという町です。現地の言葉ヘレロ語で、「十分」「終わり」「もうおしまい」という意味があります。コップにジュースを注いでもらって、「もうこれ以上はいらないよ」と言いたいときに、「オプウオ、オプウオ！」と言います。子どもたちが遊んでいて、お母さんが「もうおしまいにしなさい」と言うときも、「オプウオ！」不思議な名前の町です。



Opuwo!

最後に、カメル小学校について紹介します。カメル小学校には、年長さんにあたる0年生から、最高学年の7年生まで、約620人の子どもたちが通っています。

制服があり、シャツは水色、ベスト、スカートやズボン、靴下は灰色です。髪の毛は、男の子も女の子も丸刈りにするのがカメル小学校のルールです。明るく親切な子どもたち。ここに来てすぐに、カメル小学校の子どもたちのことが大好きになりました。



暑いのか？寒いのか？暮らしはどんなのか？どんなことを教えているのか？など、おたよりに書きたいことがたくさんあります。それではまた。

